



院内感染対策研修会を開催しました。

10月21日に当院の大会議室にて院内感染対策研修会を行い、インフルエンザ防止対策について学びました。

今シーズンは流行が早く、当院においても10月に面会禁止を実施しました。現在も継続して、皆様にインフルエンザ予防のご協力をお願いしています。



子供用マスクは時間外入り口、大人用マスクは売店前の自動販売機にて販売しています。

インフルエンザ予防のお願い

※面会や診察でご来院の際、**手指消毒とマスクの着用**をお願いします。

※次の方はご面会をお断りしています。

- ★咳・発熱・下痢の症状のある方
- ★同居中、又はご家族の中でインフルエンザを発症している方と3日以内に接触があった方
- ★学校や職場でインフルエンザが流行している方

ご面会が必要な場合は、その都度、職員へご確認ください。

ELNEC-J 「喪失・悲嘆・死別」

5月からスタートしたELNEC-Jの講義内容を紹介します。

11月8日のモジュール7では、患者さんやご家族の「喪失・悲嘆(ひたん)・死別」について理解を深めるとともに、看護師自身の悲嘆について学びました。

悲嘆とは、喪失や死別によって引き起こされる気分、行動、反応で誰でも経験する正常な反応です。しかし、その人の年齢や性別、故人との関係性、信仰、文化など様々な影響で反応や強度はそれぞれ異なり、多職種によるケアも重要です。

また、看護師は残された人の支援だけでなく、看護師自身の悲嘆についても認識し対処していく必要があります。

ELNEC-Jとは

「米国のアメリカ看護大学協会とCity National medical Centerが共同して設立した教育プログラムの日本語版です。

エンド・オブ・ライフ・ケアや緩和ケアを提供する看護師に必須とされる能力修得のための体系的なプログラムとなっています。

通常の悲嘆の反応

- ・食欲がない
- ・よく眠れない
- ・罪悪感、いらだち
- ・孤独感
- ・無力感、絶望感
- ・記憶力や集中力の低下
- ・落ち着かない
- ・外出する気にならない
- ・疲労 …等々

悲嘆のプロセス

- ・人それぞれ、反応や強度は異なる。
- ・人それぞれ、気持ちの変化に必要な時間は異なる。
- ・混在して時をかまわずして反応が起こる。

精神的・身体的ケアだけでなく、専門医や福祉のサポートが必要な場合もあります。一人で悩まず、まずは医療スタッフや行政機関、支援団体などに相談しましょう。

受講生からひとこと



看護師 原田 仁美

外来では、病状告知の場面に立ち会うことがあります。患者さん本人へ伝えられたり、家族だけに伝えられたり様々です。予後を宣告された時からエンドオブライフケアは必要とされます。外来看護師として必要なスキルを学びたいと思い、研修に参加しました。

研修では、他病院の看護師・訪問看護師とのグループワークを通して患者さんとの関わり方を情報共有しています。講義も残り3回となりました。目的が達成できるよう頑張ります。